

2018 年度事業報告案

1. 事業報告全般	1
1.1. 全般.....	1
1.2. 2018 年度役員および担当.....	1
1.3. 会員異動.....	2
1.4. 総会.....	2
1.5. 理事会.....	3
2. 事業活動	3
2.1. 会誌刊行事業.....	3
2.1.1. 会誌編集委員会.....	3
2.1.2. 会誌経営委員会.....	5
2.2. 普及研修事業.....	7
2.2.1. 研修委員会.....	7
2.2.2. シンポジウム実行委員会.....	7
2.2.3. 試験実施委員会.....	8
2.2.4. 広報活動（広報委員会）.....	9
2.2.5. 西日本委員会.....	10
3. その他委員会・プロジェクト活動	10
3.1. 表彰者選考委員会.....	10
3.2. 著作権活動（著作権委員会）.....	11
3.3. 標準化活動（標準化委員会）.....	11
3.4. 新規事業プロジェクト.....	11
3.5. ホームページコンテンツ・プロジェクト.....	12
4. 研究会活動	12
4.1. 日本オンライン情報検索ユーザー会（OUG）.....	12
4.1.1. 化学分科会.....	12
4.1.2. ライフサイエンス分科会.....	12
4.1.3. 特許分科会.....	14
4.2. 専門部会（SIG）.....	14
4.2.1. 技術ジャーナル部会.....	14
4.2.2. パテントドクメンテーション部会.....	14
4.2.3. 分類／シソーラス／Indexing 部会.....	15
4.2.4. ターミノロジー部会.....	16

4.3. 3i研究会.....	16
5. 調査・受託事業.....	17
5.1. ISO/TC37 及び ISO/TC46 国内委員会業務.....	17
5.2. その他の委託業務.....	18
6. 関連団体との連携.....	18
7. 事務局.....	19

1. 事業報告全般

1.1. 全般

2018年度は収入、支出ともに減少したが結果としては3,968,268円の黒字となった。昨年とほぼ同額の黒字ではあるが、残念ながら、収入は、安定した協会運営が可能な水準には達していない。収入の減は613万円と大きくなっているが、それと同額程度、支出も減少している。収入・支出ともに減少額の半分程度はISO委託費の減によるが、シンポジウムの開催時期変更の関係で1日開催となったことなど、全ての項目が少しずつ減少している。正会員と会誌購読者の減少は引き続き進行しており、今後の運営には一層の厳しさが予想される。

このような財政上の問題にも拘らず、会誌刊行事業、普及研修事業(講習会、シンポジウム、検索技術者検定)、部会・研究会活動、受託事業等、全体的に充実した事業を推進することができたのは会員各位、特に理事、委員会関係者、その他の皆様の貢献によるものと感謝している。

本年度の主な実績は次の通りである。

- ・会誌刊行事業については、前年に引き続き、会誌編集委員会の企画による多彩な特集テーマ(情報の探索・発信・読解力、AI、インフォプロのキャリアなど)を核として、安定した定期発行を達成した。オープン化の動きについては、連載でも扱った。
- ・研修事業については研修委員会や西日本委員会により企画・推進が行われ、会員の注目するセミナー、見学会を実施した。
- ・第15回情報プロフェッショナルシンポジウム (INFOPRO 2018) を協会主催で2018年7月13日、日本図書館協会会館2階研修室で開催した。開催時期を前倒ししたことにより、縮小規模の開催となったが、トーク&トーク、プロダクト・レビュー、情報交換会に一貫して参加する方が多く、盛り上がりを見せた。
- ・検索技術者検定試験については、1級、2級で受験者数・合格者数が増加した一方、3級については大きく減少した。このことについては、対策が必要である。
- ・部会・研究会活動については、OUG(4分科会)、SIG(5部会)のそれぞれの分科会、部会における活動が継続して行われた(一部休会中)。3i研究会はJSTの協力のもと、多数の資源提供機関を得て、東京3グループ、大阪1グループが第6期の活動を行っている。第5期の活動については、2018年7月のシンポジウムで研究成果を発表した。第4期の成果については、2018年度の会誌に論文が順次掲載された。

1.2. 2018年度役員および担当

2018年度役員一覧(50音順)

	氏名	担当職務
理事(東日本) (16)	小河 邦雄	試験実施(副)
	長田 孝治	副会長、運営部会
	木本 幸子	会誌(正)、運営部会
	佐藤 京子	副会長、運営部会

	棚橋 佳子	会誌(副)、運営部会
	戸塚 隆哉	専務理事、運営部会
	原田 智子	試験実施(正)
	増田 豊	研修・シンポジウム(副)、運営部会
	松下 茂	広報(正)、著作権、運営部会
	松田 真美	新規事業(副)
	宮澤 彰	標準化、OUG・SIG
	屋ヶ田和彦	3i 研究会(正)、知財
	安平 進	広報(副)、運営部会
	山崎 久道	会長、運営部会
	吉井 隆明	新規事業(正)
	吉野 敬子	研修・シンポジウム(正)、 3i 研究会(副)、運営部会
理事(西日本) (4)	岡 紀子	西日本
	田中 邦英	西日本
	森 美由紀	西日本
	矢崎 美香	西日本

監事	清水美都子	
	角田 裕之	

1.3. 会員異動

種別	2017 年度末	入会	退会	増減	2018 年度末
維持会員	49	3	3	0	49
特別会員	69	1	1	0	69
正 会 員	839	59	54	5	844
準 会 員	9	0	3	-3	6
合計	966	63	61	2	968

1.4. 総会

第 6 1 回定時社員総会は、2018 年 6 月 27 日に開催された。

議題

1. 定款一部変更の件（審議）
2. 2017 年度事業報告および決算報告（審議）
3. 2018 年度事業計画および予算案（報告）

4. 2018～2019 年度役員選挙
5. 第 43 回情報科学技術協会賞表彰
 - 情報業務功労賞 増田豊殿、宮澤彰殿
 - 教育・訓練功労賞 鈴木尚志殿
 - 協会事業功労賞 中村栄殿
 - 優秀機関賞 医学情報サービス研究大会(MIS)殿
6. 名誉会員推挙
妹尾哲男殿、長谷川正好殿
7. 永年会員推挙
鈴木博道殿、石塚 英弘殿

1.5. 理事会

2018 年度理事会は、4 回開催された。

第 1 回 2018/7/13

役員選出、理事担務検討、GDPR 対策ほか

第 2 回 2018/10/17

内規変更、2019 シンポジウム、新規事業「知財権技能士」対策講座ほか

第 3 回 2019/3/26

内規変更、2019 事業計画・予算案検討ほか

第 4 回 2019/5/15

決算報告、2019 事業計画・予算案検討ほか

2. 事業活動

2.1. 会誌刊行事業

2.1.1. 会誌編集委員会

2018 年度も安定した刊行(毎月 1 日発行)を達成することができた。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、今年度もインフォプロの関心領域から様々な話題のトピックを取り上げることができた。特集テーマの検討に際しては、図書館分野に偏らないことを意識し、当協会の事業と関連する「特許情報と人工知能(AI) -II」(7 月号)や「インフォプロのキャリアパス」(1 月号)を特集する一方で、「図書館と企業の連携」(6 月号)や「情報を探しやすくするには」(11 月号)といった業種横断的な特集も取り扱いつつ、さらに「オープン化の新たな視座」(10 月号)など、幅を広げるような特集の構成を取ることができたと言える。

例年どおり、他の委員会と連携した特集を刊行した。パテントドキュメンテーション委員会からは「特許情報と人工知能(AI) -II」(7 月号)の企画検討、編集において全面的な協力を頂き、特集号を発行することができた。シンポジウム実行委員会からは「第 14 回情報プロフェッショナルシンポジウム」(5 月号)特集号の発行に全面的な協力を頂いたほか、12 月号～1 月号の記事として掲載された「第 15 回情報プロフェッショナルシンポジウム」の開催報告及び研究発表報告を取りまとめて頂いた。記事読者に有益な情報を届けるためにも、これらの連携企画については継続して実施したいと考えている。

その他の取り組みとして、「インフォプロのキャリアパス」(1月号)では巻頭特別座談会を企画し、編集委員による司会のもと、INFOSTAの今後の方向性にも関わる議論を記事として掲載することができた。また、「SNS時代の情報発信を考える」(4月号)等では通常の記事よりもページ数を縮減(～4ページ)しつつ、より多くの事例を拾うなど、読者にとって読みやすく、また幅広いトピックを扱えるような柔軟な雑誌作りを指向した。

【特集】

年	号	特集タイトル
2018	4月号	SNS時代の情報発信を考える
2018	5月号	第14回情報プロフェッショナルシンポジウム
2018	6月号	図書館と企業の連携
2018	7月号	特許情報と人工知能(AI)- II
2018	8月号	情報読解力を考える
2018	9月号	新聞の今
2018	10月号	オープン化の新たな視座
2018	11月号	情報をさがしやすくするには
2018	12月号	人工知能(AI)について
2019	1月号	インフォプロのキャリアパス
2019	2月号	企業博物館
2019	3月号	図書館利用者をデータで把握する

【連載・コラム】

新たな連載記事「オープンサイエンスのいま」を3名の著者による持ち回りで開始した。

- ・オープンサイエンスのいま(2018年4月号～継続連載中)
- ・INFOSTA Forum(継続連載中)

特集原稿及び連載以外の記事としては、会員からの投稿記事を26本、書評を7本掲載した。昨年度に比べ投稿記事数が大幅に伸びた背景には、3i研究会報告が多く寄せられたほか、原稿種別を整理した影響か、集会報告等が幅広く投稿されたことが挙げられる。なお、10月号に掲載された投稿記事及び連載記事が起点となって新聞に取り上げられるなど、社会的な反響も広がりつつある。

【委員会・会議開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2018-04-04	定例委員会	文京シビックセンター
2	2018-05-09	定例委員会	文京シビックセンター
3	2018-06-02	定例委員会・企画会議	文京シビックセンター
4	2018-07-04	定例委員会	文京シビックセンター
5	2018-08-01	定例委員会	文京シビックセンター
6	2018-09-05	定例委員会	文京シビックセンター
7	2018-10-03	定例委員会	文京シビックセンター
8	2018-11-07	定例委員会	文京シビックセンター
9	2018-12-01	定例委員会・企画会議	文京シビックセンター
10	2019-01-09	定例委員会	文京シビックセンター
11	2019-02-06	定例委員会	文京シビックセンター
12	2019-03-06	定例委員会	文京シビックセンター

【委員会の体制等】

会誌編集委員会では会誌編集協力員(2019年3月現在3名)を置いており、電子メール、企画会議への参加を通じてコメントをいただき、実務視点に捉われない多角的な情報の把握に努めている。また、事務体制につき三役との懇談を行い、編集委員及び事務局のタスクを整理するとともに、協力員の増強策を検討した。編集作業の効率化の観点からは、2017年度から試行していたオンラインツールを本格的に導入した。さらに、委員の入れ替えに伴い複線化していた原稿確認項目を見直し、マニュアルの形式にまとめて委員会で共有した。ビデオ会議システムの導入については、編集委員から具体的な要望が上がった時点で再検討することとした。

その他、会誌経営委員会には1名の委員が参画し(9月までは2名)、多様な視点から会誌の在り方等について検討を進めるとともに、投稿の手引き改訂、J-STAGE上でのお勧め記事掲載及びアクセス解析といった面で緊密な連携のもと具体的な活動を行っている。関連して、両委員会の所掌を見直し、2019年度よりウェブサイト管理を経営委員会に委ねることとした。

2.1.2 会誌経営委員会

会誌経営委員会は、会誌編集委員会、事務局と連携して、会誌に関わる諸業務の健全な運営のための施策、記事構成に関する方針、特集以外についての具体的な記事内容、読者増加に向けての施策などの策定と実施の監督を行うことを任務とする。2018年度は、事業計画に基づいて以下のように活動した。

(1) 経営状態改善のための方策の検討

当初は、非会員読者への会誌の浸透を図るための電子購読契約制度とペイ・パー・ビュー(PPV)販売を検討したが、会員の会費・特典と非会員への販売を併せて総合的に検討されたいという執行部からの要請があったため、改めて検討を行った。その結果、①維持会員、特別会員の会費額(口数)の刻み幅を小さくして特典・サービスに多様性を持たせ、幅広い機関の要望に応える、②非会員への会誌販売価格を多少値上げするとともに、PPVを導入して会誌の普及を図る、を骨子とする案をま

とめた。この案は、会誌経営委員会の任務の範囲を越えた内容を含むため、2018年12月の運営部会、2019年3月の理事会に提案して検討を依頼した。

(2) 会誌における新たな企画の検討

(a) 連載記事についていくつかの案を検討し、「情報学の基礎理論（仮題）」の連載を2019年半ばから開始することとした。他の案については引き続き検討する。また、連載中の「オープンサイエンスのいま」を2019年度まで延長することとし、著者の了解を得た。この連載については、2019年4月号以降エンバーゴ期間を置かずに公開することとした。

(b) 会誌の紙面構成について前年度から引き続き検討を行い、協会記事や催し物通知の掲載位置の再編、目次のグループ化等を行った。レイアウトの最終確認要綱を定め、事務局に毎号の確認作業を依頼することとした。

(c) 2018年度社員総会で出された意見に基づき、理事の抱負・考え方を掲載するページを企画し、理事会で承認を得た（2019年1月号に掲載）。

(3) 会誌の中長期的な位置づけ

協会の活動状況、会員構成、会誌へのニーズ等を踏まえて最適な会誌の在り方を探るという計画であったが、J-STAGE アクセス統計の分析を定期的に行う程度に留まった。

(4) 会誌に関わる著作権上の問題の検討

会誌掲載記事の紙面から紙面への複製を許諾する権利は、2018年第1号以降については著者から協会に許諾されることになったが、それ以前（2007年第1号～2017年第12号）の記事について検討した。第三者からの複製許諾要求があった場合は協会に許諾の権利を委任することを了承されたい旨の通告をホームページ上に掲載する案を作成し、著作権委員会に検討を依頼した。

(5) その他

(a) 会誌への投稿記事の質的・量的充実を図るための方策を検討した。これらについて他の委員会の協力を願うため、2019年3月の理事会において説明した。この検討の一環として、会誌編集委員会と共同して「『情報の科学と技術』原稿確認マニュアル」を作成した。

(b) エンバーゴの対象となっている特集・連載記事の一部を、会誌の広報のため即時一般公開することについて、その基準・方法を検討した。また、会誌掲載記事を著者が機関リポジトリ等で公開するときのガイドラインについても検討した。これらの検討は次年度に引き継ぐ。

(c) 会誌編集委員会と共同して、協会ホームページの会誌ページの改善案をまとめた。なお、このページの管理・更新は、2019年度より経営委員会の所掌とすることとした。

【委員会開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2018-05-14	連載企画、新事業企画、紙面構成、会誌収支改善	協会会議室
2	2018-09-28	会誌収支改善、電子購読制、紙面構成、複製許諾	協会会議室

3	2018-11-26	連載企画、会員の会費・特典と非会員への販売	協会会議室
4	2019-02-14	連載企画、一部記事の即時公開、投稿充実策、ウェブサイトの会誌ページ改善	協会会議室

2.2. 普及研修事業

2.2.1. 研修委員会

①委員会開催状況

以下の日程で開催した。

2018-04-09, 2018-05-17, 2018-06-20, 2018-10-02, 2018-11-27,
2019-01-22, 2019-02-19, (2019-03-18), 2019-03-19

②活動状況

- ・2018-09-20 立案担当者が解説！ 平成30年改正著作権法と法改正の経緯・今後の動向（日本図書館協会会館）40名
- ・2019-01-18 INFOSTA 会員限定新春セミナー ディスカバリー時代のインフォプロ（日本図書館協会会館）40名
- ・2018-02-19 INFOSTA 維持会員限定セミナー 「JDreamⅢ」可視化機能と新機能活用術（日本図書館協会会館）9名
- ・2018-03-05 INFOSTA セミナー 「難しい」を「分かりやすい」へ —科学コミュニケーターの技術と考え方—（日本図書館協会会館）20名
（他委員会との連携）
- ・会誌編集委員会 企画案用に特集予定表の情報共有を依頼。
- ・西日本委員会 著作権セミナーの情報共有
- ・専図協との連携 打ち合わせ再開（2019.2.28）

2.2.2. シンポジウム実行委員会

①委員会開催状況（2018年2月～2019年3月）

- 第1回シンポジウム（プロジェクトチームA）2018年2月19日（18:30-21:00）
- 第2回シンポジウム（プロジェクトチームA）2018年3月26日（18:30-21:00）
- 第3回シンポジウム（プロジェクトチームA）2018年5月22日（18:30-20:00）
- 第4回シンポジウム（プロジェクトチームB）2018年6月7日（18:30-20:00）
- 第5回シンポジウム（プロジェクトチームA）2018年7月12日（18:30-20:00）
- 第6回シンポジウム（プロジェクトチームA & B 合同会議）
2018年9月20日（18:30-20:00）

- 第1回 INFOPRO2019 実行委員会 2018年12月3日（19:00-21:00）
- 第2回 INFOPRO2019 実行委員会 2019年1月21日（18:30-21:00）
- 第3回 INFOPRO2019 実行委員会 2019年3月6日（18:30-21:00）

②活動状況

第15回情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO 2018）を2018年7月13日に日本図書館協会2階ホールにて、INFOSTAの独自企画として開催した。

今回は、シンポジウム実行委員会は組織せず、理事・委員会委員、及び別途依頼するメンバーから成るプロジェクトチームAとBが担当した。日程は2017年度より半年前となる2018年7月13日（金）の一日とし、内容は3i研究会発表、プロダクト・レビュー、トーク&トークに加え、協会賞表彰式、情報交流会（参加者は無料、簡単な飲み物とつまみで、情報交換主体）とし、一般発表とポスターセッションは実施していない。プロジェクトチームを2月からスタートさせ、短期間ではあるが万全を期して準備を進め、当日は、発表・討議から交流会まで、大変盛況であった。来年度は、2019年7月4日（木）～5日（金）の二日間、JST別館で開催予定。シンポジウム実行委員会を組織し、開催準備を進めている。一般発表の募集も行う。

2.2.3. 試験実施委員会

①委員会開催状況

- ・ 169回（2018-04-17）作業分科会委員の人選と課題検討、HP更新作業関連、受験者減への対応策検討、2級・3級テキスト出版の進捗等
- ・ 170回（2018-05-22）試験HPの掲載内容見直し、受験案内とポスターのデザインと内容の確定、作業分科会委員の人選と作業改善案の検討、作問方法の改善案検討等
- ・ 171回（2018-06-19）試験関連の課題についての三役との相談結果報告と討議、作問依頼方法の決定、1級試験方法の変更検討、受験案内の内容確認、作業分科会委員の人選方法の検討
- ・ 172回（2018-07-31）作業分科会の進捗報告と今後のスケジュール、試験HPの掲載内容の改善検討、1級試験方法の変更検討等
- ・ 173回（2018-09-18）受験申込状況報告、作問チェックの方法検討とスケジュール確認、試験HPの掲載内容の修正方針の決定、受験の手引きの内容修正等
- ・ 174回（2018-10-18）3級テキストについて報告、受験申込状況の確認、試験結果の受験者への通知内容の検討、作問チェックの方法とスケジュール確認、合否判定スケジュールの確認等
- ・ 175回（2018-12-12）2018年度検索技術者検定実施報告、3級合否判定、CBT（Computer Based Testing）受験について、試験結果の受験者への通知内容の検討、1級試験方法の変更検討等
- ・ 176回（2019-01-10）試験実施委員会の新委員紹介、1級一次合否判定、1級二次面接関連討議、1級試験方法の変更の詳細な内容の検討、作業分科会委員の状況と人選検討、今後のスケジュール確認等
- ・ 177回（2019-01-23）2級合否判定、1級二次試験の面接官の確定、公開解答例について討議、試験HPの内容・レイアウト確認、1級試験方法の変更の詳細な内容の検討等
- ・ 178回（2019-02-12）1級二次合否判定、作業分科会の体制と人選検討、2018年度検索技術者検定の試験内容と今後の方向性検討、作業分科会委員の新体制の検討等

②活動状況

作業分科会委員の人選：

試験の水準を維持するためには優れた作業分科会委員を確保することが喫緊の課題であり、1年間を通じて検討したが、委員の確保が難しい状況にある。原因を検討し、その解決方法や委員確保のための方策、試験方法の変更による改善などを検討した。

試験方法の変更検討：

協会三役との会議（2018年5月30日）を受けて、約1年間を通じて検討した。その結果、会誌の2019年5月号で1級試験方法の変更を予告し、6月号に詳細を掲載することとした。併せて協会のホームページにも案内を掲載する準備を行った。

委員会以外の活動：

- ▶ 新試験に関する試験実施委員会と協会三役との打合せ：2019年2月27日（水）
- ▶ 2級、3級テキストの内容を刷新するために執筆、編集の協力。3級『検索スキルをみがく：検索技術者検定3級公式テキスト』（2018年10月18日刊行、発行：樹村房）、原田 智子 編著／吉井 隆明・森 美由紀 著、2級『プロの検索テクニック：検索技術者検定2級公式推奨参考書』（2018年8月10日刊行、発行：樹村房）原田 智子 編著／小河 邦雄・清水 美都子・丹 一信・藤井 昭子 著
- ▶ 合格者を祝う会 東京：3/8（金）、大阪：3/2（土）開催

2.2.4. 広報活動（広報委員会）

① 委員会開催状況

- ・ 2018年度第一回委員会 4月18日（水）18:30～20:30
- ・ 2018年度第二回委員会 6月12日（火）18:30～20:40
- ・ 2018年度第三回委員会 9月20日（木）18:30～20:40
- ・ 2018年度第四回委員会 11月28日（水）18:30～20:30
- ・ 2018年度第五回委員会 2月27日（水）18:30～19:20

② 活動状況

- ・ 広報関連資料作成と修正（A4リーフレット修正、A3見開きパンフの修正検討、検定試験ポスター&パンフレット案の検討）
- ・ HPコンテンツプロジェクトへの委員派遣とHPトップページの検討と改定案の提示を行う。
- ・ 関連団体（日本薬学図書館協議会、日本医学図書館協会、日本病院ライブラリー協会等）の総会・研修会等の会合、および、サンメディア学術ソリューションセミナーでの広報用A4リーフレットの配布（または設置）
- ・ TwitterによるINFOSTA各行事やシンポジウムの広報を適宜発信
- ・ 日本図書館協会全国大会（10月）への出展参加
- ・ 同大会向けの準備委員会及び来年度開催のための委員会に委員を派遣
- ・ 2018年度および2019年度開催のINFOPROシンポジウム実行委員会に委員を派遣
- ・ 2018年度シンポジウムの広告ならびに抄録集表紙、および、ランチマップの作成

2.2.5. 西日本委員会

①委員会開催状況

2018-04-27：第191回西日本委員会（大阪市立総合生涯学習センター）

2018-07-06：第192回西日本委員会（※Skype）

※大雨の影響で交通機関が乱れ、大阪市中央公会堂の会議室をキャンセルして急遽Skypeで会議を開催した。

2018-09-28：第193回西日本委員会（大阪市立総合生涯学習センター）

2018-11-30：第194回西日本委員会（大阪市中央公会堂）

2019-02-22：第195回西日本委員会（大阪市立難波市民学習センター）

②活動状況（理事会に報告すべき事項）

2018-09-15：検索技術者検定3級対策セミナー

2018-09-22 -23：サーチャーズ講座21

2018-09-07：西南学院大学見学会

2018-11-30：情報と人をつなぐじょいんと懇話会

2019-03-02：2018年度検索技術者検定「合格を祝う会」

3. その他委員会・プロジェクト活動

3.1. 表彰者選考委員会

2019年4月10日（水）に第44回（2019年）表彰者選考委員会を開催。以下の各賞が理事会で承認された。

○情報業務功労賞

野崎 篤志氏（株イーパテント）

○教育・訓練功労賞

原田 智子氏（鶴見大学名誉教授）

○研究発表賞

大谷 周平氏（琉球大学）

坂東 慶太氏（名古屋学院大学）

対象論文 「論文海賊サイトSci-Hubを巡る動向と日本における利用実態」

（情報の科学と技術. 2018, vol.68 no.10, 513-519）

○優秀機関賞

TP&D フォーラム（整理技術・情報管理等研究集会）（<http://mis.umin.jp/35/>）

○協会事業功労賞

中江 貴彦氏（小野薬品工業(株)）

○名誉会員

該当なし

○永年会員

小倉 三枝子氏（元国際稲研究所）

古賀 節子氏（元青山学院大学）

3.2. 著作権活動 (著作権委員会)

①委員会開催状況

- ・各委員が多忙であるため、審議事項についてはメールで確認を行なっているが、現状ではあまりアクティブな活動には至っていない。

②活動状況 (理事会に報告すべき事項)

- ・会誌経営委員会でご検討を頂き、まとめていただいた INFOSTA が会誌の複製許諾権を持たない時期の許諾の取り扱いについての案を著作権員会で検討。
- ・会誌経営委員会の案を支持する決定を行う。

3.3. 標準化活動(標準化委員会)

① 委員会開催 : 3回 (2018年7月5日, 2019年2月8日, 2019年3月13日)

② 活動状況

- (1) a) 国際標準化 ISO/TC37 および TC46 の国内審議団体引き受け, b) JIS 策定, 見直しへの協力, 3) 協会独自の標準化活動を柱とする。
- (2) ISO/TC37, ISO/TC46 の国内審議団体の事務局としての活動をサポートした。
- (3) TC46 分野において新規国際標準開発の提案を経済産業省に対し行った。結果は不採択であった。
- (4) JIS X 0902-1:2005 記録管理改正の原案作成を行い, 最終案を 2019年2月28日に提出した。
- (5) JIS X 0305:1999 国際標準図書番号 (ISBN) 改正の原案作成を行っている。7月に原案提出予定
- (6) JIS X0307 国際十進分類法 (UDC) の改正を提案し, 日本規格協会の JIS 原案作成事業に応募した。
- (7) ISO/TC37 および TC46 国内審議委員会運営規定を改訂した。
- (8) 日本規格協会より産業標準作成委員会 (情報分野) への参加要請に伴い, 安形委員の派遣を決定した。
- (9) 日本規格協会の木村美実子委員の追加参加を決定した。

3.4. 新規事業プロジェクト

医療分野での事業展開については、他関連団体との連携は近々の実現は見込みが薄いことが分かり、方向性含め継続的に検討することとなった。

一方で新たに「知的財産管理技能検定三級対策セミナー」を立案企画し、次年度早々に第一回のセミナーを実施する運びとなった。

具体的には下記の活動を行った。

- ・ 2018年8月13日 :

今後の活動について三役交え調整 (医学中央雑誌刊行会に於いて)

- ・ 2018年10月17日 :

知的財産管理技能検定三級対策セミナー開講に関する稟議書承認を得る (2018年度第2回理事会に於いて)

- ・ 2018年10月28日 :

企業向け「検索技術者検定3級対策セミナー」の実施及び「知的財産管理技能検定3級対策セミナー」の紹介（紀伊国屋書店に於いて）

・2018年12月20日：

企業向けの「検索技術者検定3級対策セミナー」及び「知的財産管理技能検定3級対策セミナー」の広報活動（図書館流通センターに於いて）

・2019年1月21日：

知的財産管理技能検定3級対策セミナー会場の調整活動（お茶の水スクール・オブ・ビジネスに於いて）

・2019年1月～2月：

知的財産管理技能検定3級対策セミナーに関する収支見積もり及び会誌掲載用チラシ原稿について関係者調整。

3.5. ホームページコンテンツ・プロジェクト

・協会のホームページ (<https://www.infosta.or.jp>) の更新、管理は「ホームページ運用内規」に基づき、会長が全体管理責任者となり事務局及び広報委員会が全体の更新責任者を務め、各委員会からのホームページ更新責任者、更新担当者により順調に行われている。

・ホームページソフト「WordPress」はVer.5になったが、今の所仕様を大きく変えずに利用している。

・広報委員会はトップページの改善案を提出し、2019年3月の理事会で承認されたので今後実行する予定で動いている。

4. 研究会活動

4.1. 日本オンライン情報検索ユーザー会 (OUG)

今年度は実質ライフサイエンスと特許の2つの分科会となった。この2つの分科会については、安定した活動を続けているが、新規会員はほとんどない。新規会員の勧誘や参加者の増加策を講じてきてはいるが、新規入会者の情報や責任者連絡先、収支状況などがきちんと共有化されていないと言う課題は残されている。

4.1.1. 化学分科会

休会中

4.1.2. ライフサイエンス分科会

2018年4月度（第358回）ライフサイエンス分科会

開催日時 2018年4月19日（木）

開催場所：日本図書館協会

参加人数：9名

内容：業務に役立つ学習：学会・研究セミナー講習会の紹介、共有

2018年5月度（第359回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2018年5月17日（木）

開催場所： 東邦大学 医学メディアセンター本館（東京都大田区森西 医学メディアセンター本館）

参加人数： 7名

内容： 東邦大学 医学メディアセンター本館及び「からだのとしよつ」見学

2018年6月度（第360回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2018年6月21日（木）

開催場所： 日本図書館協会

参加人数： 9名

内容： クラリベイト・アナティクス社サービス紹介

『疾患メカニズム探索と創薬ターゲット同定～ツルを使った効率的な手法の紹介』

『ライフサイエンス情報の気軽で速やかな技術動向分析～ Derwent Data Analyzer の活用』

2018年7月度（第361回）ライフサイエンス分科会

開催日時： 2018年7月19日（木）

開催場所：日本図書館協会 会議室

参加人数： 18名

内容： JST、ジー・サーチ サーチ 発表

「リニューアルした J-STAGE」

「JDreamIIIの新機能紹介」

2018年9月度（第362回）ライフサイエンス分科会

開催日時： 2018年9月20日

開催場所： 日本図書館協会日本図書館

参加人数： 9名

内容： JAPIC、グローバルデータ・ジャパン

「ブルーブック連携データベース」 「Pharma Intelligence Center」

2018年10月度（第363回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2018年10月18日（木）

開催場所：日本図書館協会会館

参加人数： 8名

内容： 特許分析評価ソリューション LexisNexis PatentSight®

2018年12月度（第364回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2018年12月19日（水）

開催場所：日本図書館協会会館

参加人数： 21名

内容： オープンアクセスの動向～ゴールド OA、グリーン OA それぞれの立場から～

「OUP and the changing OA landscape」

「機関リポジトリを知る」

2019年1月度（第365回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2019年1月17日（木）

開催場所：日本図書館協会会館

参加人数：14名

内容：コンテンツの活用と著作権に関する最新動向～テクノロジー、経済性とポリシーからの観点も踏まえて～

2019年2月度（第366回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2019年2月21日（木）1

開催場所：日本図書館協会

参加人数：5名

内容：（検索演題）2018年度検索技術者定 1級・2級試験問題の演習

4.1.3. 特許分科会

主査：幹事会メンバーで交代制（11回/年 第2金曜日開催、8月休会）

検索演習6回、講演会4回、その他2回（ミックスあり）

4.2. 専門部会 (SIG)

特定の分野または専門技術に関心を持つ会員が自由に参加し研さんを積む場として以下の4つのグループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画して活動した。いずれの部会でもメンバーはほぼ固定であり、安定はしているが発展性に乏しいという問題がある。

4.2.1. 技術ジャーナル部会

（会員企業：9社。コアパーソン：持ち回り。6回開催）

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

【議題】

- ・ 5月度：1. 原稿の体裁（掲載項目）について、2. 技報の役割・あり方
- ・ 7月度：原稿執筆から査読のフォローアップ
- ・ 9月度：技報の電子化とその効果
（Web版の発行、アクセスログの分析、Web版による効果と課題）
- ・ 11月度：1. 『J-STAGE 搭載の案内』、2. 執筆者情報（とくに顔写真）の掲載について 3. 表紙デザインの決め方”
- ・ 1月度；1. 発行スケジュールをキープするための工夫、2. 技報の活用方法とその評価方法
- ・ 3月度：1. 外国人執筆者による論文の取り扱いについて、2. 社外執筆者からの論文寄稿について

4.2.2. パテントドキュメンテーション部会

（会員：6名 コアパーソン：桐山 勉氏 毎月開催）

①INFOPRO2018 においては、一般発表がなかったため、継続連続発表が途切れた。

②協会のホームページに組み込まれた テント ク ンテーション部会のホームページにて、活動状況を(毎年複数回更新して) 継続公開した。

③外国専門誌による勉強会：

・World Patent Information 専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。 コアパーソンがWPI 専門誌の Editorial Advisory Board に 2014 年 10 月から就任したので、WPI 専門誌の勉強会がしやすくなった。

④外部知的財産団体への協力；INFOSTA-PD 委員会に実行委員会 1 名参加

・会誌 情報の科学と技術 68(7)に、「PIUG2018 年次大会 および IPI-Award2018 受賞式に参加して」(受賞者として)を報告。

・会誌 情報の科学と技術 68(7)に、特集号「特許情報と人工知能 (AI) -II」を企画参加。

⑤ メンバー間のトピックス情報交換

・米国 PIUG2018、EMW2018、EPOPIC2018、CPAC2018 などの関連詳細情報をメンバー間で交換。これらのうち、米国 PIUG2018 にて IPI-Award2018 を桐山が受賞し、一般プレゼン発表も行った。それらを 当 PDG 部会にても詳細に報告した。その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加しているものの相互紹介など。

⑥プロバイダーデモ勉強会の実施

・アイ・ピー・ファイン社の THE 調査力と Deskbee の無料 ID を貸して頂き、デモ実施 (2018 年の PDG 部会にて)

・Clarivate Analytics 社の Derwent Innovation および PatentSight Japan 社の PatentSight を試行させて貰い、「空飛ぶタクシーに関する IP ランドスケープ研究」を行った。

4.2.3. 分類／シソーラス／Indexing 部会

(コアパーソン:山崎久道氏 6 回開催)

① 例会開催報告 (当年度から開催を 6 回に変更した。)

回	開催日	テーマ	会場	参加者
1	2018-04-27	索引評価項目の詳細検討 (1)	文京シビックセンター	9
2	2018-06-29	索引評価項目の詳細検討 (2)	文京シビックセンター	11
3	2018-09-21	UDC に関する JIS 規格の見直しについて	文京シビックセンター	10
4	2018-11-16	索引指示書における索引評価項目の記述 (1)	文京シビックセンター	8
5	2019-01-25	索引指示書における索引評価項目の記述 (2)	文京シビックセンター	11
6	2019-03-15	索引指示書における索引評価項目の記述 (3)	文京シビックセンター	13

②合理的な「本の索引」（本の内容を後で検索するためのもの）を作成するためのチェックリストの構築を目指して、索引項目別に検討した。また、既存の索引指示書における該当記述を比較した。

③国際的に利用されている UDC 分類表にかかわる JIS 規格について、今後のあり方を議論した。

4.2.4. ターミノロジー部会

(部会員：9名 コアパーソン：長田孝治氏 年6回開催)

設立の趣旨：情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催であるが、2018年度は2回の実施に留まった。

①例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
84	2018-04-20	「ISO 25964-2 シソーラス見直し」の検討	協会会議室	8
85	2019-03-29	ターミノロジー活動方向の検討	協会会議室	6

4.3. 3 i 研究会

① 委員会開催状況

第6期の活動は、2018年6月～2019年3月までとし、月1回（基本的に、東京：第2木曜日、大阪：第3火曜日）にリーダー会議および全体会合を実施した。

第6期のグループ編成は、東京3グループ、大阪2グループである。

② 活動状況

(1) INFOPRO での発表

2018年7月13日に、第5期活動の成果を INFOPRO セッション A1 にて下記のテーマで発表した。

A11 特許と論文の複合解析による有望応用分野の予測 — 印刷技術を例に —

A12 工業技術による一次産業（養殖）の高収益化

A13 技術情報を用いた他社コア技術の特定手法開発

A14 高齢者の屋外行動監視における現状調査とサービスの提案

(2) 第6期中間進捗報告：2018年10月16日、東京・大阪合同の中間進捗報告会を実施した。

各グループの研究テーマは、以下のとおりである。

東京A 3M に学ぶ持続的イノベーションのヒント

東京B 特定企業の戦略的特許出願網の事例分析

東京C 家庭用ロボットの将来像を俯瞰した投資技術選定

大阪A ヘルスケアにおけるニーズに基づく新規サービスの提案

大阪B 機能ツリーマップを用いた新規開発テーマの探索手法の提案

*研究の進捗に応じて、テーマ名は変更しており、現在のテーマ名とは少し異なる部分がある。

(3) 会誌への掲載

第5期の活動成果は、2018年12月号より、順次1テーマずつ会誌へ掲載している。

高齢者の屋外行動監視の現状調査とサービスの提案. 会誌. 2018, 68(12), 611.
工業技術による一次産業の高収益化 養殖における新たな技術を探る. 会誌.
2019, 69(1), 43.

技術情報を用いた他社コア技術の特定手法開発. 2019, 69(2), 94.

特許と論文の複合解析による有望応用分野の予測 —印刷技術を例に—.

2019, 69(3), 133.

(4)第6期 最終報告会

2019年3月14日、13時～17時40分 東京・大阪両会場を Skype で繋ぎ、合同報告会を開催した。

(5)第7期の計画

2019年2月14日に企画会議を開催し、第7期は2019年8月から2019年3月までの期間とする事を決定した。2017年7月4日に、参加募集のガイダンスを行う予定。

(6)第6期の成果発表

INFOPRO (2019年7月4日)にて、第6期の研究成果を口頭発表予定。

第6期の成果は会誌に掲載すると共に、その他の学会、研究会の場においても成果を積極的に発表する事を促す。

5. 調査・受託事業

5.1. ISO/TC37 及び ISO/TC46 国内委員会業務

国際標準化機構 (ISO) の「情報とドキュメンテーション」(TC46)及び「専門用語及び他の言語、情報内容の資源」(TC37)に関する国内委員会業務を、2013年度より担当している。

(1) 国際標準化 TC37 ((株) 三菱総合研究所からの委託により実施)

本委員会(石崎俊委員長)の下に、SC1(専門用語作成の原則と手法)、SC2(用語辞書編纂方法)、SC3(用語、情報、内容の管理システム)、SC4(言語資源マネジメント)、SC5(翻訳、通訳及び関連技術)の5つのSC国内委員会を置き、総会(2018年6月、杭州)への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(40件)等を実施した。

本年度は、以下の5項目のテーマについて、標準化を進めた。

- 【1】 言語構造と意味表現との対応関係に関する標準化
- 【2】 技術文書における多言語用語の標準化
- 【3】 技術文書の翻訳のための制限言語の標準化
- 【4】 文書コンテンツのアノテーションに関する標準化
- 【5】 制限言語の基本原理に関する標準化

- ・ 国内審議委員会 3回 (2018年5月29日, 2018年10月24日,

2019年1月17日)

- ・ 投票数 40 (NP: 10, CD:3, DIS: 8, FDIS: 3, SR: 4, CIB: 12) の回答作成
- ・ TC37 国際会議への委員派遣

(2) 国際標準化 TC46

本委員会(宮澤彰委員長)の下に、SC4(技術的相互運用性)、SC8(品質-統計及び性能評価)、SC9(識別と記述)、SC11(アーカイブズ/記録管理)の4つのSC国内委員会を置き、総会(2018年5月、ポルトガル・リスボン)への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(51件)等を実施した。

- ・ 国内審議委員会 TC46 本委員会 2回 (2018年6月20日, 2019年1月23日),
投票数 12 (DIS: 2, FDIS: 1, SR: 1, CIB: 8)
- ・ 国内審議委員会 TC46/SC4 分科委員会 2回 (2018年7月4日, 2019年1月30日),
投票数 9 (FDIS: 1, SR: 1, CIB: 7)
- ・ 国内審議委員会 TC46/SC8 分科委員会 2回 (2018年6月22日, 2019年2月15日)
投票数 7 (DIS: 1, FDIS: 1, SR: 1, CIB: 4)
- ・ 国内審議委員会 TC46/SC9 分科委員会 2回 (2018年6月29日, 2019年1月31日)
投票数 14 (NP: 1, CD: 2, DIS: 1, SR: 2, CIB: 8)
それぞれの回答作成, TC46 国際会議への委員派遣を行った。
- ・ 国内審議委員会 TC46/SC11 分科委員会 2回 (2018年6月20日, 2019年1月24日),
投票数 9 (DTR:2, CD: 4, DIS: 1, CIB:2)

5.2. その他の委託業務

なし。

6. 関連団体との連携

① 会員としての加入

- ・ 一般財団法人機械振興協会協賛会員 (継続)
- ・ 国立研究開発法人科学技術振興機構賛助会員 (継続)
- ・ 東京商工会議所賛助会員 (継続)

② 他団体との共催

- ・ 第104回全国図書館大会(2018-10-19/20)
- ・ ジョイント懇話会(2018-11-30)

③ 他団体から後援を受けたもの

第15回情報プロフェッショナルシンポジウム (INFOPRO2018)(2018-7-13) に対して、国立国会図書館、情報知識学会、情報メディア学会、専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報経済社会推進協会、日本図書館協会、日本図書館情報学会、日本特許情報機構から後援を受けた。

④ 他団体に後援、協賛したもの

- ・ 平成30年度専門図書館協議会全国研究集会(専門図書館協議会) (2018-6-27/28)
- ・ 特許検索競技大会2018((一財)工業所有権協力センター) (2018-9-1)
- ・ 知財情報フォーラム (IPI-Forum) (2018-7-24, 2017-11-27)
- ・ TP&Dフォーラム2018 (TP&Dフォーラム実行委員会) (2018-9-15/16)
- ・ 情報知識学フォーラム2018(2018-12-8)

これらについては、会誌に広告を掲載する他、投稿があれば開催報告を会誌に掲載している。また当協会のビラ配布も適宜依頼している。

7. 事務局

事務局長事務取扱	長田 孝治	総括、
担当	鈴木 吉之	各種委員会、INFOPRO シンポジウムの運営、検索技術者検定の試験実施、メルマガ発行、ホームページ維持管理
担当	木村かな子	経理
担当	廣田みどり	会誌編集管理
担当	光富 健一	ISO 関連受託事業

- ・ 会員管理、購読者管理、書籍販売事務 2月末まで(株)毎日学術フォーラムに委託 3月1日以降会員管理、購読者管理を(株)アドスリーに委託変更
書籍販売事務については販売量の減少により事務局で実施
- ・ 会誌編集事務 昭和情報プロセス(株)に委託
- ・ シンポジウム運営サポート 1日開催のため委託なしで実施
- ・ 試験会場運営 一部(株)全国試験運営センターに委託
- ・ 会計業務 アスト税理士法人(AST)に委託
- ・ ホームページ(システム契約、WordPress サイトマネージメント保守)
タイニービット(有)

以上